施設分離型の小中一貫校における中学校教員による小学校での乗り入れ指導の在り方

津田英樹，柴崎直人
岐阜大学教職大学院

The way of how to teach at a primary school by a junior high school teacher in a facility separation type elementary and junior high school consistent education school

Hideki Tsuda, Naoto Shibazaki
Gifu Uniyersity, Gtaruate School for the Teaching Profession

序章　本開発実践の目的と概要

本開発実践では、小学校児童の中学校進学への不安感の低減や、学力向上、中学入学後の学校生活への不適応の低減を目指して、中学校教員が小学校での乗り入れ指導を行い、その成果と課題をもとに、乗り入れ指導の在り方を考察する。

第１章　小中一貫教育の現状と課題

第１節　小中一貫教育の構想

平成 29 年３月に新しい学習指導要領が公示された。そこでは、小学校と中学校などの学校段階間の円滑な接続が図られるよう工夫することが求められている。

羽島市では、子どもたちの「生きる力」を育むために、平成 29 年度より、市内全校区で小中一貫教育を推進している。具体的には、「学力の向上、学校生活への適応力の向上、教職員の意識改革」が期待されている。筆者が勤務する中央中学校区は「施設分離型」として分類されている。

筆者の勤務校は、羽島市立中央中学校（以下「中央中」）である。接続する小学校は、羽島市立中央小学校（以下「中央小」）である。両校は校区が一致しており、いわゆる「１小１中」である。両校は１ｋｍ、車で５分程度離れているので、施設分離型の小中一貫校ということになる。

中央中と中央小では、両校の校長が協議して小中一貫教育推進構想図を作成し、４月の職員会で構想が提案され、全職員で共通理解をしている。両校は、その構想に基づいて、相互に授業参観をしたり、板書の色使いやハンドサイン等の学び方に一貫性をもたせたり、一貫した「学級力アンケートによる学級づくり」や「学校運営協議会の運営」をしたりして、小中一貫教育を推進している。数年前は、喫煙や授業エスケープが多発し、大変荒れていた中央中が、ここ数年で劇的に変化し、喫煙や授業エスケープがない、落ち着きのある学校になった要因の一つが、この小中連携、一貫の成果であると私は考えている。しかし、小６時には不登校ではなかったのに、中学入学後に学校生活に適応できずに不登校になるケースがなかなかなくならないのも現状である。平成 29 年度の中１は、小６からの継続の不登校が６人だったが、中１の間に新たに３人が不登校になっている。

第２節　児童の事前調査結果と考察

平成 30 年 3 月に、羽島市内の全小学校の 5 年生と 6 年生（8 校、1366 人）を対象にして、質問紙調査を行った。調査内容は「中学進学への期待、不安、現在の学習満足度」である。質問１～13 は「中

学進学への期待感」を調べるもので、質問２～13 は和田ら（2016）の「中学校生活期待感尺度」[1] を用いた。質問 14～30 は「中学進学への不安感」を調べるもので、質問 15～30 は南ら（2011）の「中学校生活予期不安尺度」[2] を用いた。質問 31～39 では、現在の小学校での各教科の学習満足度を調べた。

質問の各項目における平均値は、それぞれ表１のようになった。

質問 34「小学校の、理科の授業はよくわかる」の中央小の数値も他校と比べて低かった。小学校は専門が理科の先生の数が少なく、十分な理科の指導ができていないことが原因であり、中学校の理科教員が小学校の理科の授業に乗り入れ指導を行うことが有効ではないかと考えた。

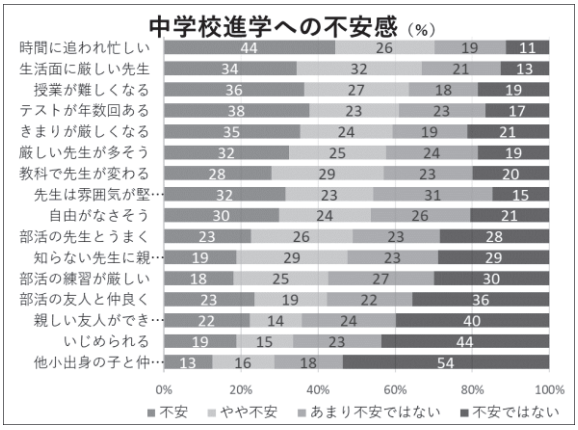
その他の質問については、期待や不安、学習満足度のいずれも、中央小児童の平均は他校児童の平均とほぼ同じだった。

【表１】児童の事前調査結果

	小５・６年生アンケート結果		３月			
			他校		中央小	
	番	質問	６年	５年	６年	５年
中学進学への期待	1	中学校への 進学が 楽しみだ	3.2	3.2	3.2	3.2
	2	中学校の 成績（せいせき）が 楽しみだ	2.7	2.8	2.6	2.6
	3	中学校では、制服を 着るのが 楽しみだ	3.0	2.9	2.7	2.6
	4	中学校では、部活動で 先ぱいに 教えてもらうことが 楽しみだ	2.9	2.9	2.8	2.7
	5	中学校では、教科ごとにちがう先生に教えてもらうことが楽しみだ	2.9	3.0	2.8	2.9
	6	中学校では、部活動で 先生に 指導を受けられるのが 楽しみだ	2.8	2.8	2.8	2.6
	7	中学校では、学期ごとの 大きな試験（テスト）が 楽しみだ	2.3	2.3	2.3	2.1
	8	中学校では、学校の 行き帰りが 楽しみだ	3.1	3.2	3.1	3.1
	9	中学校では、たくさんの 先生と 出会えることが 楽しみだ	2.9	2.8	2.8	2.8
	10	中学校では、行事などで 先ぱいと 出会うことが 楽しみだ	2.9	2.8	2.7	2.6
	11	中学校では、相談できる先生を 見つけたい	3.2	3.1	3.1	2.9
	12	中学校では、新しい授業が おもしろそうで 楽しみだ	3.0	3.1	2.9	2.9
	13	中学校では、上級生にいろいろなことを教えてもらうのが楽しみだ	2.7	2.7	2.6	2.6
		①質問２～１３の平均	2.9	2.9	2.8	2.7
中学進学への不安	14	中学校への 進学が 不安だ	2.3	2.0	2.3	2.0
	15	中学生は、時間に追われて いそがしい と思う	3.2	3.1	3.3	3.0
	16	中学校の先生は、ふんいきが かたそうだ	2.7	2.6	2.6	2.7
	17	中学校では、教科によって 先生がかわるので、授業になれるのが 大変だ	2.7	2.6	2.7	2.6
	18	中学校では、日ごろの生活面にきびしい先生がいると安心に思う	2.8	2.8	2.9	2.9
	19	中学校では、大きなテストが １年間に何回かあるので 不安だ	3.0	2.8	2.9	2.8
	20	中学校では、部活動の先生と うまくやっていけるか 心配だ	2.6	2.5	2.6	2.4
	21	中学校では、部活動の友人と なかよくできるか 心配だ	2.5	2.3	2.5	2.3
	22	中学校の先生は、知らない先生なので、したしみがもてるか心安だ	2.5	2.5	2.7	2.4
	23	中学校では、したしい友人ができるか 心配だ	2.4	2.2	2.2	2.2
	24	中学校では、小学校よりも きまりがきびしくなりそうで 不安だ	2.7	2.6	2.8	2.7
	25	中学校の先生には、きびしい先生が多そうなので 心配だ	2.7	2.6	2.6	2.7
	26	中学校では、小学校にくらべると 自由がなさそうなので 心配だ	2.6	2.4	2.7	2.6
	27	中学校では、まわりの生徒から いじめられないか 心配だ	2.3	2.2	2.2	2.1
	28	中学校では、ちがう小学校の出身の生徒となかよくなれるか心安だ	2.5	2.4	2.3	1.9
	29	中学校では、授業がむずかしくなるので ついていけるか 心配だ	2.9	2.8	3.0	2.8
	30	中学校では、部活動の練習が きびしそうで 不安だ	2.5	2.4	2.5	2.3
		②質問１５～３０の平均	2.7	2.5	2.7	2.5
学習満足度	31	小学校の、国語の 授業は よくわかる	3.1	3.2	2.9	3.1
	32	小学校の、社会の 授業は よくわかる	3.2	3.3	3.1	3.1
	33	小学校の、算数の 授業は よくわかる	3.2	3.1	3.0	3.3
	34	小学校の、理科の 授業は よくわかる	3.2	3.3	2.9	3.0
	35	小学校の、音楽の 授業は よくわかる	3.3	3.2	3.2	3.3
	36	小学校の、図工の 授業は よくわかる	3.4	3.5	3.4	3.4
	37	小学校の、体育の 授業は よくわかる	3.5	3.4	3.5	3.4
	38	小学校の、家庭科 の授業は よくわかる	3.3	3.4	3.4	3.4
	39	小学校の、英語の 授業は よくわかる	2.8	3.0	3.1	3.1
		③質問３１～３９の平均	3.2	3.3	3.2	3.2

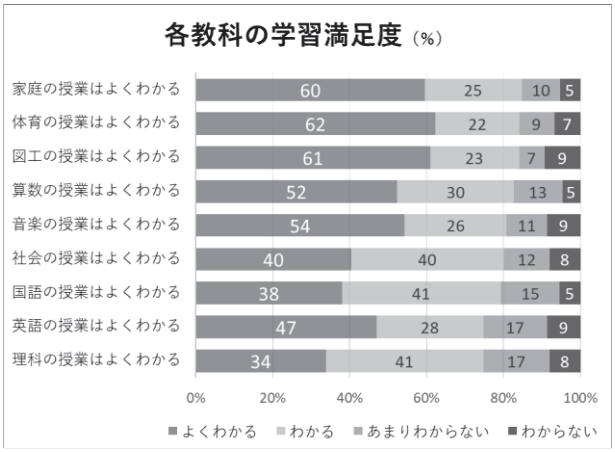
本開発実践で乗り入れ指導を行っている中央小の６年生 157 人の結果は以下のようになった。

図１のグラフは「中学進学への不安感」の結果である。「時間に追われ忙しい」や「生活面に厳しい先生」、「授業が難しくなる」などの不安感が高いことがわかった。こうした不安に対して正しい情報を与え、安心感ややる気をもって進学できるようにする指導が必要だと感じた。また、「他小出身の子と仲良くできるか」や「いじめられる」、「親しい友人ができるか」などは不安感が低いことがわかった。これは、１小１中のため、他小学校から中央中に来る生徒は非常に少なく、ほとんど小１から同じ学年で過ごしてきた仲間とともに進学できることが大きな原因であると考えられる。



【図１　中学校進学への不安感】

図２は各教科の学習満足度の結果である。学習満足度については、家庭科や体育、図工などが高く、理科や英語などが低いことがわかった。理科については、小学校では専門が理科の教員の数が少なく、十分な理科の指導ができていないことが考えられる。英語については、小学校での英語の授業は最近始まったばかりであるため、教員が英語の授業に慣れていないことが原因であると考えられる。こうした理科や英語について、中学校の理科や英語の教員が小学校で乗り入れ指導を行うことが、児童の学習満足度を高めるために有効ではないかと考えた。



【図２】各教科の学習満足度

第３節　教員の事前調査結果と考察

平成 30 年 3 月に、羽島市内の全小中学校の教員（小 8 校、中 4 校、義務教育学校 1 校、計 13 校、374 人）を対象にして、質問紙調査を行った。質問１～８は「小中一貫教育への意識」、９は「多忙感」、10～18 は「小学校高学年の各教科の指導不安」について質問した。

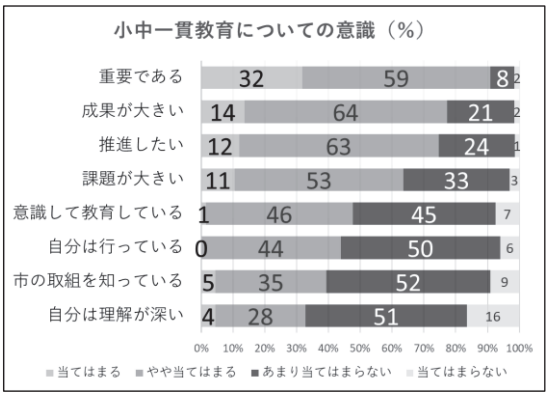
質問 1～18 の各項目における平均値は、それぞれ表２のようになった。この結果から、中央小中の教員は、他校と比べて、小学校高学年の教科指導に対する不安がやや高いが、小中一貫教育への意識は他校とほぼ同じであることがわかった。

【表２】教員質問紙結果

	教員質問紙調査結果	3月				
番	質問	他の小中	他の小	中央小中	中央中	中央小
1	自分は、小中一貫教育への理解が深い	2.3	2.2	2.2	2.0	2.4
2	小中一貫教育は、重要である	3.0	3.0	3.2	3.2	3.2
3	小中一貫教育では、成果が大きい	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9
4	小中一貫教育では、課題が大きい	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7
5	羽島市の小中一貫教育の取組状況を知っている	2.4	2.4	2.3	2.2	2.5
6	所属校では、小中一貫教育をしっかり行っている	2.3	2.2	2.4	2.3	2.5
7	自分は、小中一貫教育を意識して教育活動をしている	2.5	2.4	2.4	2.3	2.5
8	自分は、小中一貫教育を推進していきたいと思う	2.8	2.7	2.9	2.8	2.9
①質問「１～３、５～８」の平均		2.6	2.5	2.6	2.5	2.7
9	自分は、仕事をするうえで、多忙感を感じている	3.2	3.2	3.1	3.3	2.9
10	自分が小６の「国語」の授業をするのには不安感がある	2.6	2.3	2.8	3.0	2.6
11	自分が小６の「社会」の授業をするのには不安感がある	2.6	2.4	2.9	3.0	2.8
12	自分が小６の「算数」の授業をするのには不安感がある	2.2	2.1	2.6	2.8	2.5
13	自分が小６の「理科」の授業をするのには不安感がある	2.8	2.5	2.9	2.9	2.9
14	自分が小６の「音楽」の授業をするのには不安感がある	2.9	2.8	3.2	3.5	2.9
15	自分が小６の「図画工作」の授業をするのには不安感がある	2.8	2.6	2.9	3.1	2.8
16	自分が小６の「体育」の授業をするのには不安感がある	2.6	2.5	2.7	2.9	2.5
17	自分が小６の「家庭科」の授業をするのには不安感がある	2.5	2.2	2.6	2.8	2.4
18	自分が小６の「英語」の授業をするのには不安感がある	2.9	2.8	3.1	3.3	2.9
②質問「９～１８」の平均		2.7	2.5	2.8	3.0	2.7

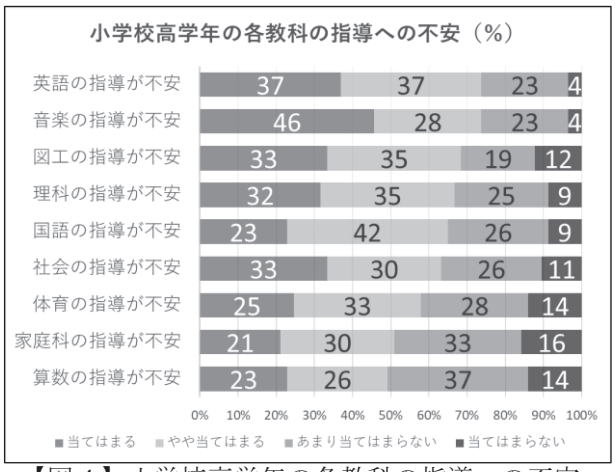
中央小と中央中の教員の 73 人の結果を以下に述べる。

図３は「小中一貫教育についての意識」の結果である。小中一貫教育の重要性や成果について認識し、推進の意欲は高いが、自分の理解の深さや意識、実践度については低く捉えていることがわかった。中央小中では、小中一貫教育構想図に基づいて、さまざまな取組を行っているが、そのことは管理職等の一部の教職員しか認識していない。多くの教員が小中一貫教育の取組を実践しているのに、そのことを意識していないことが原因だと考えられる。教員が自分たちの実践を自覚し、さらに小中一貫教育を意識して改善していくためには、自分たちの取組を振り返って今後の取組を工夫する取組が必要だと考えた。



【図３】小中一貫教育についての意識

図４は「小学校高学年の各教科の指導への不安」の結果である。算数や家庭科などの指導不安は低かったが、英語や音楽、図工、理科などの指導不安が高かった。英語については指導経験が少ないこと、音楽・図工・理科については専門の教員が少ないことが原因として考えられる。こうした英語や理科などの指導不安が高い教科で、乗り入れ指導のニーズがあると考えた。



【図４】小学校高学年の各教科の指導への不安

第２章　乗り入れ指導の実践

第１節　方法

前章で述べたような背景や勤務校の現状を踏まえ、児童生徒の学力と学校生活適応力の向上、小６児童の中学進学の不安感の低減、そして教員の小中一貫教育への意識の向上をねらって、中学校の教員が小学校で乗り入れ指導を行うことにした。

教科については理科と英語とした。その理由は、事前調査の結果、教員の指導不安が高く、児童の学習満足度が低いので、小学校のニーズが高く、成果をあげることができやすいと考えたからである。

乗り入れ指導教員については、担任ではない教員が望ましい。小中学校の時間割変更等への対応がしやすいからである。表３のようにＡ～Ｃの３人の中学校教員が行うことになった。

【表３】乗り入れ指導教員

	役職	教科	乗り入れ学級	乗り入れ週時数	指導形態
A	第２教頭（加配）	理科	６年１組	３時間（月①②、木⑥）	Ｔ１として指導（担任は空き）
B	総括生徒指導主事	英語	６年１組	１時間（木⑤）	Ｔ２として指導（担任はＴ１）
C	進路指導主事	英語	５年４組	１時間（火⑤）	Ｔ２として指導（担任はＴ１）

乗り入れ学年は、小学校高学年とした。理由は、低学年に比べて学習内容が難しくなり、教員の指導不安が増して、児童の学習満足度が低くなりやすいことと、中学進学を控えて教科担任制に慣れることができることである。

乗り入れ学級については、学年の全学級が望ましいが、中学校から出せる教員の数と時間に限りがあるため、各学年１学級とし、５年生と６年生の学年主任の学級とした。理由は、学年主任は学年の仕事が多いので他の教員よりも空き時間を少しだけ多くする慣例があることと、学年主任のほうが乗り入れ指導で学んだことを学年の他の教員に広げる影響力が強いと考えたからである。

第２節　指導実践

乗り入れ指導では以下の７点のことを大切にして実践を進めた。

（１）小学校と中学校の全教職員で乗り入れ指導についての共通理解をする。

乗り入れ指導のねらいについては、４月始めの職員会で、小中一貫教育計画をもとに提案され、全職員で共通理解を図った。このことが、乗り入れ指導への理解や協力、円滑な実践につながる。

（２）乗り入れ指導のねらいを小６児童と共有する。

４月に児童に乗り入れ指導の意図を説明した。教員だけでなく児童もねらいを意識して取り組むことで、成果が上がり、成果が自覚できやすくなるからである。

（３）教科の本質を踏まえた楽しくてわかりやすい授業を行う。

教科の本質を踏まえることで、児童は自然の素晴らしさや理科の楽しさを実感し、授業により意欲

的に取り組むことができる。また、楽しくてわかりやすい授業、テストで高得点がとれる授業をすることで、児童の自己肯定感やさらなる学習意欲を向上させることができる。児童の学力や学習満足度が向上することにより、小学校生活のみならず、中学校生活への適応力も向上すると考えている。

（４）中学校との円滑な接続を意識した指導をする。

中学校の授業や生活について話し、それらにつなげた指導を行うことで、中学進学への期待を高め、不安を減らす指導をした。

（５）小学校の高学年理科指導教員Ｄ先生と良好な人間関係を構築し、適切に助言する。

Ｄ先生は、中央小の高学年８学級（５年生４学級、６年生４学級）のうち、筆者が理科を指導している６年１組以外の７学級の理科を専科で指導している。専門は社会である。このＤ先生こそが、筆者の理科のサポートのターゲットである。筆者が理科実験の準備をしたり、Ｄ先生に理科の指導法についての助言を行ったりして、Ｄ先生がより理科を指導しやすくなったり、高学年の理科の学力が向上したりすることを目指している。

筆者は週２日、中央小の理科室を訪れるが、Ｄ先生とできるだけ多く話をして、良好な人間関係を構築するようにしている。毎回 10 分以上話をしている。良好な人間関係なくしては、助言等の成果は出ないからである。話す内容は、授業の進度、指導内容、指導方法、雑談などである。

そして、「教科の本質からの助言」と「中学校との円滑な接続を意識した助言」を行った。

（６）多様な小学校教員と情報交流をし、中学校教員につなぐ。

小学校に乗り入れ指導に行ったときは、Ｄ先生だけでなく、なるべく多様な教員と話をし、その情報を中学校の教員につないだ。乗り入れ指導により小中の情報交流が活発になっている。

（７）中学校の乗り入れ指導教員を支援する。

筆者以外の乗り入れ指導教員が小学校から帰ってきたら声をかけ、指導の様子を把握し、必要に応じて相談にのったり、適切に助言したりすることを心がけている。

第３章　結果と考察

第１節　児童の最終調査の結果と考察

１　中学進学への期待感・不安感

平成 30 年 11 月に、羽島市内の全小学校の６年生（8 校、683 人）を対象にして、3 月の事前調査と同じ質問紙を用いて質問紙調査を行った。中学進学への期待と不安に関する質問 1〜30 の各項目における平均値は、それぞれ表４のようになった。

校内事情により、乗り入れ指導は主に６年１組で行われたため、乗り入れ指導の成果と課題について６年１組と他学級や他校を比較しながら考察を進める。

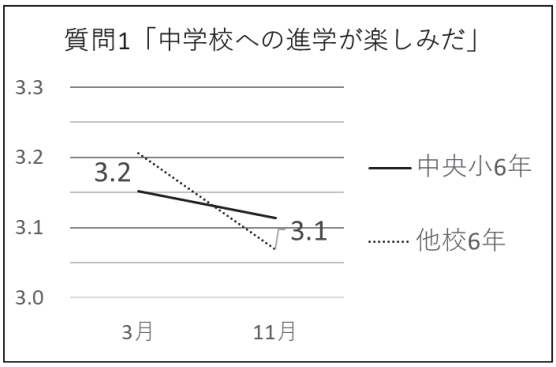
図５は、質問 1「中学校への進学が楽しみだ」の結果である。他校の６年生も中央小の６年生も共に、３月から 11 月へ「3.2→3.1」と平均値が微減した。他校と中央小で大きな差は見られなかった。

質問 2〜13 は期待の具体的な内容であり、その平均である「①質問 2〜13 の平均」については、他校６年生は「2.9→2.7」と期待が微減したが、中央小６年 2〜4 組は「2.7→2.9」と期待が微増し、中央小６年１組は「2.7→2.7」と変化がなかった。

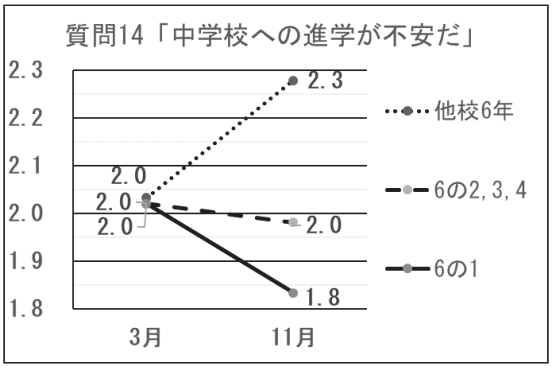
図６は質問 14「中学校への進学が不安だ」の結果である。３月は他校の５年生も中央小の５年生も共に「2.0」で、中学進学への不安に差は無かったが、11 月になると、他校の６年生は「2.0→2.3」と不安が増加したのに対して、中央小の６年 2〜4 組は「2.0→2.0」と横ばいであり、乗り入れ指導を行った中央小６年１組は「2.0→1.8」と不安が低減した。質問 14 の 11 月の他校と中央小６年１組の平均値の差について t 検定を行ったところ、中央小 6 年 1 組は他校よりも有意に不安が低かった（$t(458)=2.094, p<.05$）。

【表４】中学進学への期待と不安

	小５・６年生アンケート結果		３月				１１月		
			他校		中央小		他校	中央小	
	番	質問	６年	５年	６年	５年	６年	6の2,3,4	６の１
中学進学への期待	1	中学校への 進学が 楽しみだ	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1
	2	中学校の 成績（せいせき）が 楽しみだ	2.7	2.8	2.6	2.6	2.6	2.8	2.7
	3	中学校では、制服を 着るのが 楽しみだ	3.0	2.9	2.7	2.6	2.8	2.7	2.4
	4	中学校では、部活動で 先ぱいに 教えてもらうことが 楽しみだ	2.9	2.9	2.8	2.7	2.8	2.9	2.4
	5	中学校では、教科ごとにちがう先生に教えてもらうことが楽しみだ	2.9	3.0	2.8	2.9	2.7	3.1	2.7
	6	中学校では、部活動で 先生に 指導を受けられるのが 楽しみだ	2.8	2.8	2.8	2.6	2.7	2.9	2.6
	7	中学校では、学期ごとの 大きな試験（テスト）が 楽しみだ	2.3	2.3	2.3	2.1	2.1	2.3	2.1
	8	中学校では、学校の 行き帰りが 楽しみだ	3.1	3.2	3.1	3.1	3.2	3.3	3.2
	9	中学校では、たくさんの 先生と 出会えることが 楽しみだ	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.9	2.6
	10	中学校では、行事などで 先ぱいと 出会うことが 楽しみだ	2.9	2.8	2.7	2.6	2.7	2.9	2.7
	11	中学校では、相談できる先生を 見つけたい	3.2	3.1	3.1	2.9	3.2	3.0	3.0
	12	中学校では、新しい授業が おもしろそうで 楽しみだ	3.0	3.1	2.9	2.9	2.9	3.0	2.9
	13	中学校では、上級生にいろいろなことを教えてもらうのが楽しみだ	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.9	2.5
		①質問２～１３の平均	2.9	2.9	2.8	2.7	2.7	2.9	2.7
中学進学への不安	14	中学校への 進学が 不安だ	2.3	2.0	2.3	2.0	2.3	2.0	1.8
	15	中学生は、時間に追われて いそがしい と思う	3.2	3.1	3.3	3.0	3.2	3.2	3.3
	16	中学校の先生は、ふんいきが かたそうだ	2.7	2.6	2.6	2.7	2.8	2.7	2.8
	17	中学校では、教科によって 先生がかわるので、業になれるのが 大変だ	2.7	2.6	2.7	2.6	2.8	2.4	2.6
	18	中学校では、日ごろの生活面にきびしい先生がいると安に思う	2.8	2.8	2.9	2.9	3.0	2.8	3.0
	19	中学校では、大きなテストが １年間に何回かあるので 不安だ	3.0	2.8	2.9	2.8	3.0	3.0	2.8
	20	中学校では、部活動の先生と うまくやっていけるか 心配だ	2.6	2.5	2.6	2.4	2.7	2.4	2.5
	21	中学校では、部活動の友人と なかよくできるか 心配だ	2.5	2.3	2.5	2.3	2.5	2.4	2.1
	22	中学校の先生は、知らない先生なので、したしみがもてるか安だ	2.5	2.5	2.7	2.4	2.7	2.3	2.3
	23	中学校では、したしい友人ができるか 心配だ	2.4	2.2	2.2	2.2	2.4	2.1	2.1
	24	中学校では、小学校よりも きまりがきびしくなりそうで 不安だ	2.7	2.6	2.8	2.7	2.8	2.7	2.4
	25	中学校の先生には、きびしい先生が多そうなので 心配だ	2.7	2.6	2.6	2.7	2.8	2.6	2.6
	26	中学校では、小学校にくらべると 自由がなさそうなので 心配だ	2.6	2.4	2.7	2.6	2.7	2.6	2.4
	27	中学校では、まわりの生徒から いじめられないか 心配だ	2.3	2.2	2.2	2.1	2.4	2.2	1.9
	28	中学校では、ちがう小学校の出身の生徒となかよくなれるか安だ	2.5	2.4	2.3	1.9	2.6	2.3	2.6
	29	中学校では、授業がむずかしくなるので ついていけるか 心配だ	2.9	2.8	3.0	2.8	2.9	2.7	3.0
	30	中学校では、部活動の練習が きびしそうで 不安だ	2.5	2.4	2.5	2.3	2.6	2.4	2.3
		②質問１５～３０の平均	2.7	2.5	2.7	2.5	2.8	2.5	2.5



【図５】中学進学への期待



【図６】中学進学への不安

質問 15～30 は不安の具体的な内容であり、その平均である「②質問 15～30 の平均」については、３月は他校の５年生も中央小の５年生も共に「2.5」で、中学進学への不安に差は無かったが、11 月になると、他校の６年生は「2.5→2.8」と不安が増加したのに対して、中央小の６年生は「2.5→2.5」と横ばいであり、不安が増加しなかった。

これらの結果から、以下の２点のことが考えられる。

① 乗り入れ指導を行っても、小６児童の中学進学への期待は高まらない。
② 乗り入れ指導を行うと、小６児童の中学進学への不安は低減する。

「② 乗り入れ指導を行うと、小６児童の中学進学への不安は低減する」理由としては、中学校では専門の教員が楽しくてわかりやすい授業をしていることを知って安心できたことが一番大きいと考える。他にも、中学校の教員はそんなに厳しいわけではないことを知ったことや、中学校の話を聞いて様々な不安が解消されたことなどが考えられる。

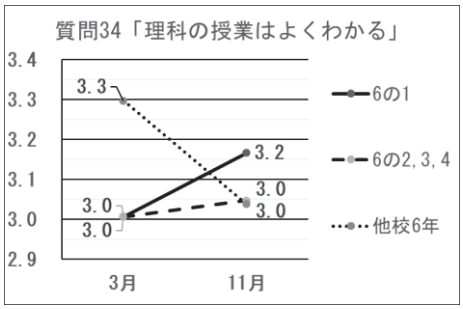
「① 乗り入れ指導を行っても、小６児童の中学進学への期待は高まらない」理由として、以下のことを考えている。一般論として、中学校のことがよくわからないと中学進学の期待も不安も大きくなるが、中学校のことを正しく理解すると過度な期待や不安はなくなっていく。「小中一貫教育の非実施校→施設分離型の小中一貫校→施設隣接型・一体型の小中一貫校→義務教育学校」という順で、小中一貫教育が充実していくと考えられるが、同じ順で、小６の中学進学への期待と不安は低くなっていくと考える。したがって、乗り入れ指導を行い、中学校の正しい情報を得たために、不安も減ったが、過度の期待もなくなったと考えられる。今回の結果は、むしろ中央小では、小中一貫教育や乗り入れ指導を推進し、不安を低減させつつも、期待を減少させなかったと捉えることができるかもしれない。そうだとすればそれは、中学校が魅力ある学校づくりを推進し、その魅力を乗り入れ指導教員が小６に進んで伝えてきた成果だと考えることができる。

２　学習満足度

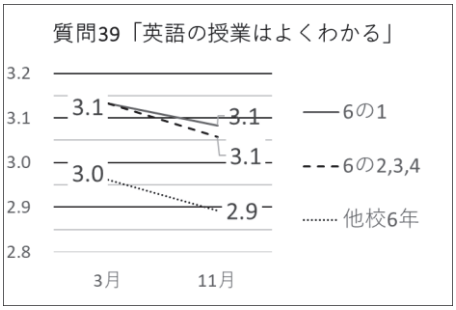
児童の学習満足度に関する質問 31～39 に対する回答の平均値は、表５のようになった。

【表５】学習満足度の結果

			３月				１１月		
			他校		中央小		他校	中央小	
	番	質問	６年	５年	６年	５年	６年	6の2, 3, 4	６の１
学習満足度	31	小学校の、国語の 授業は よくわかる	3.1	3.2	2.9	3.1	3.1	3.3	3.3
	32	小学校の、社会の 授業は よくわかる	3.2	3.3	3.1	3.1	3.1	3.2	3.3
	33	小学校の、算数の 授業は よくわかる	3.2	3.1	3.0	3.3	3.2	3.4	3.1
	34	小学校の、理科の 授業は よくわかる	3.2	3.3	2.9	3.0	3.0	3.0	3.2
	35	小学校の、音楽の 授業は よくわかる	3.3	3.2	3.2	3.3	3.1	3.3	3.3
	36	小学校の、図工の 授業は よくわかる	3.4	3.5	3.4	3.4	3.3	3.5	3.2
	37	小学校の、体育の 授業は よくわかる	3.5	3.4	3.5	3.4	3.4	3.5	3.3
	38	小学校の、家庭科 の授業は よくわかる	3.3	3.4	3.4	3.4	3.3	3.4	3.3
	39	小学校の、英語の 授業は よくわかる	2.8	3.0	3.1	3.1	2.9	3.1	3.1
	③質問３１～３９の平均		3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2



【図７】理科の学習満足度



【図８】英語の学習満足度

「③質問 31～39 の平均」については、他校６年生と中央小６年生は、３月も 11 月も、「3.2～3.3」であり、差や変化は見られなかった。

図７は、質問 34「理科の授業はよくわかる」の結果である。３月から 11 月への変化を見ると、他校

６年生は「3.3→3.0」と学習満足度が低下し、中央小６年２～４組は「3.0→3.0」と横ばいであり、中央小６年１組は「3.0→3.2」と学習満足度が高くなった。筆者が乗り入れ指導を行った６年１組の学習満足度が向上したのは乗り入れ指導の成果だと考えられるが、他学級（６年２～４組）への成果の波及が課題だと考えている。

図８は、質問39「英語の授業はよくわかる」の結果である。３月から11月への変化を見ると、他校６年生は「3.0→2.9」、中央小６年生は「3.1→3.1」であり、ほぼ変化がなかった。

これらの結果から、以下の２点のことが考えられる。

① 理科の乗り入れ指導を行ったことで、児童の理科の学習満足度が向上した。
② 英語の乗り入れ指導を行ったが、児童の英語の学習満足度は向上しなかった。

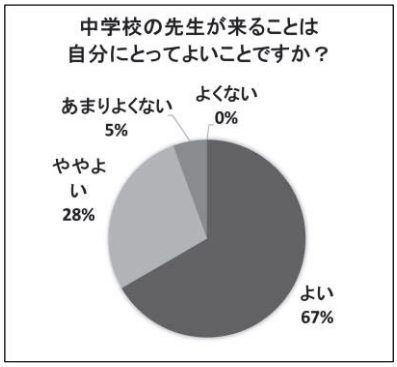
理科については、Ｄ先生と単元テストの平均点を交流すると、６年１組の平均点は、６年２～４組よりも常に高く、また「５年生のときよりも理科の単元テストの点数が上がった」という児童の声をよく聞いた。理科の乗り入れ指導は、児童の学習満足度を高め、学力を向上させたと考えられる。

英語の乗り入れ指導を行っても児童の学習満足度が向上しなかった理由は、週時数が理科の３時間に対して英語は１時間と少なく、成果が現れるのに時間がかかることや、理科は乗り入れ指導教員が単独で指導するのに対して、英語は乗り入れ指導教員がＴ２で指導していること、Ｔ１とＴ２の事前の打合せの時間の確保が難しかったこと、などが考えられる。

３　乗り入れ指導について

12月に、６年１組の児童36人に「中学校の先生が来ることは自分にとってよいことですか？」と質問したところ、結果は図９のようになった。88%の児童が肯定的に回答しており、おおむね乗り入れ指導は肯定的に受け止められていることがわかった。

理由で一番多かった意見は「授業がわかりやすい」（33%、12人）であり、「中学校の授業に慣れる」「中学校のことがわかる」「中学校への不安がなくなる」という意見も多かった。乗り入れ指導によって、学習満足度が上がり、中学進学への不安が低減していると考えることができる。



【図９】児童質問紙調査結果

第２節　教員の最終調査の結果と考察

１　乗り入れ指導について

12月に、乗り入れ指導に深く関わる中央中のＢ先生と、中央小のＤ先生と６年１組担任の３人に質問紙調査を行ったところ、「乗り入れ指導の有効性」について全員が「有効である」と返答した。質問紙に書かれた理由をまとめると、乗り入れ指導には以下の有効性があることがわかった。

①中学校教員が小学校の児童や指導を知って、中学校の指導に生かすことができる。
②中学校教員と児童が、中学入学前から互いに良好な人間関係をつくることができる。
③小学校教員が、中学校の教員から学んで指導力を向上させることができる。
④小学校教員と中学校教員が助け合い、協力して教育活動を行うことができる。
⑤児童は、中学校教員の指導を受けて学習満足度を高め、学力を向上させることができる。
⑥児童は、中学校を身近なものに感じ、中学校への心構えをつくることができる。

課題は「時数の確保」であった。乗り入れ指導の授業は、祝日や行事が入る月曜日や午後は避け、火～金曜日の午前中に位置づけるとよい。１時間目か４時間目に組むと、中学校での時間割編成もしやすくなる。年間を見通して、早めに授業時数を確保していくことも大切であることがわかった。

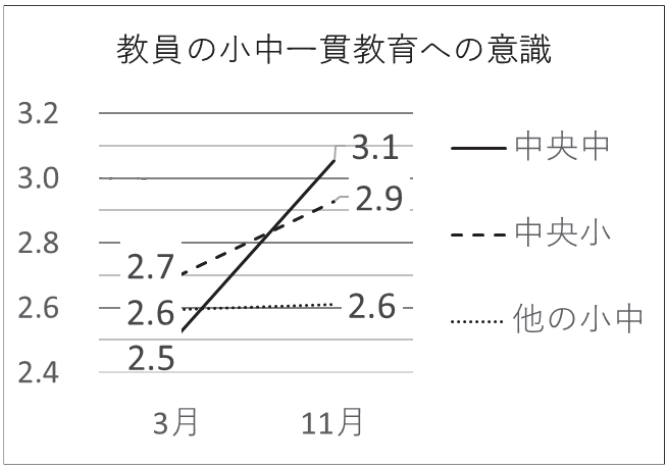
２　小中一貫教育に対する意識と教科指導不安

平成 30 年 11 月に、羽島市内の全小中学校の教員（小 8 校、中 4 校、義務教育学校 1 校、計 13 校、376 人）を対象にして、3 月の事前調査と同じ質問紙を用いて質問紙調査を行った。各質問の回答の平均値はそれぞれ表 6 のようになった。

【表６】教員質問紙調査結果

番	質問	3月					１１月				
		他の小中	他の小	中央小中	中央中	中央小	他の小中	他の小	中央小中	中央中	中央小
1	自分は、小中一貫教育への理解が深い	2.3	2.2	2.2	2.0	2.4	2.3	2.3	2.6	2.5	2.6
2	小中一貫教育は、重要である	3.0	3.0	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.4	3.7	3.3
3	小中一貫教育では、成果が大きい	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	3.1	3.2	3.1
4	小中一貫教育では、課題が大きい	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.8	2.9	2.7
5	羽島市の小中一貫教育の取組状況を知っている	2.4	2.4	2.3	2.2	2.5	2.4	2.3	2.7	2.8	2.7
6	所属校では、小中一貫教育をしっかり行っている	2.3	2.2	2.4	2.3	2.5	2.4	2.3	3.1	3.1	3.0
7	自分は、小中一貫教育を意識して教育活動をしている	2.5	2.4	2.4	2.3	2.5	2.5	2.5	2.8	2.9	2.7
8	自分は、小中一貫教育を推進していきたいと思う	2.8	2.7	2.9	2.8	2.9	2.8	2.7	3.1	3.3	3.1
①質問「１～３、５～８」の平均		2.6	2.5	2.6	2.5	2.7	2.6	2.6	3.0	3.1	2.9
9	自分は、仕事をするうえで、多忙感を感じている	3.2	3.2	3.1	3.3	2.9	3.2	3.2	3.0	3.2	2.9
10	自分が小６の「国語」の授業をするのには不安感がある	2.6	2.3	2.8	3.0	2.6	2.7	2.5	2.7	3.1	2.4
11	自分が小６の「社会」の授業をするのには不安感がある	2.6	2.4	2.9	3.0	2.8	2.6	2.5	2.9	2.9	2.8
12	自分が小６の「算数」の授業をするのには不安感がある	2.2	2.1	2.6	2.8	2.5	2.3	2.2	2.4	2.4	2.4
13	自分が小６の「理科」の授業をするのには不安感がある	2.8	2.5	2.9	2.9	2.9	2.8	2.7	2.9	2.9	2.9
14	自分が小６の「音楽」の授業をするのには不安感がある	2.9	2.8	3.2	3.5	2.9	3.1	3.0	3.0	3.2	2.9
15	自分が小６の「図画工作」の授業をするのには不安感がある	2.8	2.6	2.9	3.1	2.8	2.9	2.7	2.8	3.1	2.7
16	自分が小６の「体育」の授業をするのには不安感がある	2.6	2.5	2.7	2.9	2.5	2.6	2.6	2.4	2.2	2.5
17	自分が小６の「家庭科」の授業をするのには不安感がある	2.5	2.2	2.6	2.8	2.4	2.6	2.5	2.5	2.4	2.6
18	自分が小６の「英語」の授業をするのには不安感がある	2.9	2.8	3.1	3.3	2.9	3.0	3.0	3.0	2.9	3.0
②質問「９～１８」の平均		2.7	2.5	2.8	3.0	2.7	2.7	2.6	2.7	2.8	2.7

図 10 は、「①質問『1～3、5～8』の平均」の結果である。質問の「1～3, 5～8」の数値が高いと、小中一貫教育に対して、理解が深かったり、前向きに捉えたりしていて、小中一貫教育への意識が高いと考え、「①質問『1～3、5～8』の平均」の変容に着目した。３月の中央小中は他校と同じ「2.6」だったが、11 月になると、他校は「2.6」のままで変化がなかったのに対し、中央小中は「3.0」となり、数値が上昇していた。これは、中央小中が乗り入れ指導などの小中一貫教育を推進し、教員の小中一貫教育への意識が高まったからだと考える。



【図 10】①質問「1～3、5～8」の平均

第３節　成果と課題

本開発実践の成果は、「乗り入れ指導の有効性が検証できた」ことと、「乗り入れ指導の有効性を高める指導の在り方を考察することができた」ことである。

主な「乗り入れ指導の有効性」は以下の通りである。

①児童の中学進学への不安が低減する。
②児童の学習満足度が向上する。
③教員の指導力、小中一貫教育への意識が向上する。
④学校間の情報交流が活発化し、児童生徒の姿を通して相互理解が深まる。

「有効性を高める乗り入れ指導の在り方」は以下の通りだと考える。

①乗り入れ指導のねらいを教員や児童と共有して、皆で意識して取り組む。
②教科の専門性を生かし、教科の本質を捉えた楽しくてわかりやすい授業を行う。
③学び方の改善や進学不安の解消など、小中の円滑な接続を意識した指導を行う。
④乗り入れ先の教員との交流を充実させ、協力して指導の改善と指導力の向上に努める。
⑤乗り入れ指導の成果を教員や児童と共有して、さらに改善策を考えていく。

「教頭としての有効な乗り入れ指導のマネジメントの在り方」については以下の通りだと考える。

①校長や接続する学校の校長とよく相談して、早めに計画を立案する。
②計画では、働き方改革を意識し、教員の多忙感に十分配慮する。
③教育委員会に早めに計画を伝え、加配や兼務発令などの協力を依頼する。
④小中一貫教育や乗り入れ指導の推進担当教員を位置づけ、支える組織をつくる。
⑤４月に、乗り入れ指導教員はもちろん、接続先の学校も含めた全ての教員で、乗り入れ指導のねらいを共有し、理解と協力を求める。
⑥乗り入れ指導教員や接続する学校との連絡を密に行い、指導の状況を把握し、適切に助言し、改善を図る。
⑦小中合同研修会や合同指導部会などを実施し、全教員で乗り入れ指導への理解を深め、小中一貫教育を推進することができるようにする。
⑧取組の成果を職員打合せ等で積極的に教員に伝え、意欲を喚起する。
⑨取組を評価し、改善策を考え、校長や接続する学校の校長と相談しながら早めに次年度の計画を立案していく。

本開発実践で明らかになった主な「乗り入れ指導の課題」は以下の通りである。

①乗り入れ指導教員と担任が調整して、早めに授業時数を確保すること。
②乗り入れ指導の成果を他学級や他学年へ広げていくこと。

教員の加配があると小中一貫教育や乗り入れ指導は教育効果が高まるが、実際には加配は認められにくい。今後は、加配がない場合の乗り入れ指導の有効な在り方について考えていきたい。

また、今年度乗り入れ指導を受けた６年１組の児童は、理科の学習満足度が高まり、中学校の教員と人間関係ができ、中学進学への不安が低減したのだが、はたして学校への適応力は高まっているのか、来年度中学校１年生になったときに学校不適応になりにくいのか、継続観察していきたい。

【参考文献】

1 小中移行期における児童の学校適応感に関する研究－中学校生活への期待感・不安感に注目して－
和田邦美、小倉正義　兵庫教育大学教育実践学論集第 17 号 2016 年 3 月 pp. 39-50
2 小学生の予期不安と中学校入学後の学校適応感との関係に関する学校心理学的研究
南雅則、浅川潔司、秋光恵子、西村淳　教育心理学研究、2011, 59, pp. 144-154